

## 相談課

「特養事業部相談課」は、特養入所者又はそのご家族の方へ相談援助を行っています。定期的な面談や随時相談に応じ、介護員や看護師、セラピストと連携を図りご利用の希望や要望に沿ったサービスの提供に努めています。

また、特養に併設されているショートステイ（短期入所生活介護）の受入れも担当しています。在宅生活を送っている要介護者、ご家族の介護負担の軽減、さらにレスパイトケアにも対応しながら在宅生活継続の支援を行っています。

特養の入所についての相談やショートステイご利用の相談など随時受付けていますのでお気軽にご相談下さい。

これからもご利用者が自分らしく生活でき、また快適な生活を送っていただけるようより良いサービス提供を目指します。



特養事業部長と相談課スタッフです

## 児童クラブピーター

かきざサポートセンター内「児童クラブピーター」は、2006年4月に開設され、今年で6年目を迎えます。

主に北部小学校に通う1年生から3年生までの40名前後の子ども達に、保護者が働いている時間帯に、安心・安全に過ごせる場を提供しています。

放課後学校から「ピーター」に帰園し、宿題をしたり、おやつを食べたり、自由遊びをしています。土曜日や祝祭日、長期休暇期間は、野外活動やデイサービスご利用者・障がいをもたれるお子さん方との交流や、各行事を行っています。

異世代交流を通し、あたたかくおもいやりのある心を育てていきたいと、指導員を始め、デイサービスの職員とも協力しながら取り組んでいます。また、地域での子育てを目指し、地域の行事にも参加しています。



ピーター全スタッフです

## 言語聴覚士の活動について



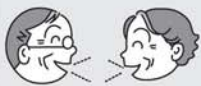
特養事業部リハビリ課  
言語聴覚士 岡市 理佐

皆さんは、「言語聴覚士」という職業を聞いたことはありますか？

言語聴覚士（スピーチランゲージヒアリングセラピスト・ST）は、ことばによるコミュニケーションの問題のある方（脳卒中後の失語症、聴覚障害、声や発音の障がい、ことばの発達遅れなど）、摂食・嚥下（飲み込み）に問題のある方に対して訓練・指導を行う専門職です。

私は勤務して3年目を迎えますが、所属している特養でも同様な方を対象に支援を行っています。なかでも、摂食・嚥下に関しては各専門職とプロジェクトチームを結成し、いつまでも「食べる」ことを楽しんで頂けるように食事形態や介助方法、摂食姿勢等に関して話し合いを行っています。また、その他に食前の嚥下リハビリを行ったり、経管栄養状態の方に対して再び食べる楽しさを獲得して頂けるように各課で連携して訓練に取り組んでいます。

今後も多くのご利用者の方が安心して快適に過ごせるように専門的サービスを提供していきたいと思っております。





## 園内研修会報告

2012年2月21日19時から20時までの1時間、津市出身で「障がいがあってもどんだん社会に出て地域で生活していこう」を合言葉に活動を行っているNPO『あっとほらむぶれいす』のコーディネーター川野陽子さん（写真）を講師にお招きし「障がい者とともに働く」をテーマに職員研修が行われました。

川野さん自身1歳の時発症し、手先しか自由に動かないようですが、「自立」とは「自分の人生を自分で選択し、決定し、あらゆるサポートを受けて地域の一人として役割を果たすことであり、障がいを持っているからこそできることもあります。地域を良くする存在として胸を張って生きていきたい。」と述べていたのが印象的でした。

川野さんは養護学校（現特別支援学校）を卒業する時、先生の「あせらなくていい」という言葉をきっかけに「自分もできることは何だろう」とそれを探すため地元の短大へ進み、大学のハード面や各種の配慮、友達のサポートがあり卒業できたと述べています。

また、『自立への挑戦』として、「①コーディネートする場の保障、②当事者・家族への「障がい」についての理解・サポート、③ソフト・ハード面の配慮、④交通アクセス、住宅、制度利用の保障」を提起され、障がいがあっても安心して社会参加できる場の保障の身近な例を明るく表情で話されました。

最後に当園が障がいのある人への

の就労継続支援事業をこれから計画することについては、「障がいを持っていないもひとりの人として気軽に立ち寄れる場所を作ってほしい」とのメッセージをいただきました。

（経営企画室）



## 海外研修報告



介護保険サービスセンター  
主任 東 久美

2月4日から2月11日の行程で、ソウエルクラブ海外研修としてオーストラリア、ニュージーランドにて、児童障がい、高齢者福祉施設の現状を視察する機会を得ました。

全国各地より、児童、障がい、高齢者福祉関係の方と添乗員を含め総勢20名の参加でした。

北欧型の福祉施策である高福祉、高負担とは、社会保障が手厚い分、それを担う世代の負担も大きく、税金も50%弱は所得税、10%は消費税で賄っています。

オーストラリアは早期より在宅ケアへ転換する政策が出され、地域基盤作りを具体的に推進してきました。

人種、所得によって差別されることなく、個人の人權、尊厳が最大限に保障されていると感じました。

今回の訪問先は、異文化混合の幼稚園、徹底したユニークケアを展開している高齢者施設、ニュージーランド政府が100%補助している障がい者の職業訓練、コミュニティの支援を行っている団体の施設でした。施設見学を通して「コミットメント」信念を持ってやり通す責任感、自主的な創造力による施設整備など意識の高さを感じました。

今回の研修で、文化や思想が違っても、お一人おひとり、尊厳を持ってその人らしい生活の実現の為に、地域コミュニティの基盤整備などケアマネジャーの立場より実践していきたいと思えます。



## 第17回 ボランティア交流会を振り返り

研修課 課長 森 光徳



今年で17回を数えるボランティア交流会、年々参加者が増えて来て、もうこれ以上席が作れないほど多くの方々に参加して下さりありがたい状況でした。今年の交流会の講師は、災害ボランティア活動の第一線で活躍されている大分県社会福祉協議会でボランティア市民活動センター所属の村野淳子さんが、昨年東日本大震災にいち早くボランティアとして駆けつけ活動した経験を、写真を通して教えてくださいました。いかに日頃人と人の繋がりがや行動が大切か改めて考えさせられた講演でした。

私たちは、目に見えるものに価値を求め行動しています。しかし、目に見える物は有限です。最も大切なものは、見えないものの中にこそ隠れている事を忘れがちです。人の愛や思いやり、優しさが、私たちが生きていく上で最も大切に必要なものです。それらが、ボランティアという活動の中には含まれています。人は、人の為に生きてこそ、その自身が生き生きとひかり輝くのではないのでしょうか？



# チャブレン

## 通信



堤 健生

「先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になる」  
新約聖書マタイ19章

知人について最近までデジカメではなくてフィルムカメラを使っている人がいました。その理由を尋ねるとフィルムカメラだと一枚一枚大切に撮るからということでした。

色々便利さという点ではデジカメですが、一枚を大切にしたいという気持ちではフィルムだということです。

世の中は新しいものが開発されると古いものにとってかわりますが、古いと思うものが意外にもそこには新しさがあって、違った意味で価値のあるものと言えましょう。

聖書は人が作り出した価値観や序列・優先順位：がひっくり返されるときが来ると語ります。神様は人とは全く異なった見方で判断されるのです。

# EFC(栄光園ファミリークラブ)報告

児童養護施設栄光園の園生の卒園に当たって、その自立を支援するため九州キリスト教社会福祉事業団職員有志で構成するEFC(ひと月1口コーヒー1杯300円分以上の献金 現在300口参加)の第1回目の支援内容が決まりました。

対象者はH・Mさん(19歳・女性)で生後間もなく乳児院に入所、以降栄光園で学校に通いながら園生活をしてきましたが、本年3月高校を卒業し、栄光園も卒園しました。彼女は明るい性格で思いやりがあり、就職を前に2月からEFCから贈られた20万円の支援と自己資金を合わせた費用で自動車教習所に通り自動車免許を取得。将来はプロのパーテナーになりたいと就職活動中とのことでした。

今回は第1号の支援でしたが、2013年3月の卒園者にもこれを励みにしてもらえれば大変嬉しいことと考えています。(EFC事務局)

# シリーズ最終回 『ワークライフバランス』を知っていますか?

今回は、いずみの園の取り組みについてご紹介いたします。この数年、いずみの園では、ワークライフバランスに力を入れてきました。なぜなら、福祉や介護の仕事は「人」がサービスの質を左右するからです。有能な人材を確保するために、リフレッシュ休暇の導入、「子ども参観日」の開催、事業所内保育施設の開設、各種休暇制度の整備など、様々な取り組みをしてきました。

中でも、小さな子どもを持つ職員に対しては、育児休業制度や勤務時間の見直しなど、子育てに配慮した対応をしてきました。さらに、この春からは事業所内保育施設を開設し、働きながら安心して子供を預けられる環境が整いました。

また、リフレッシュ休暇制度を導入しました。現在、調整しながら少しずつ取得者が増えてきました。職場内で、休暇を取りやすい雰囲気を作る事や、仕事の整理など、課題は多いようです。

24時間働くモーション社員がもてはやされた時代を振り返り、仕事と家庭生活とのバランスの大切さを認識し、今後も職員にとって働きやすく、充実した家庭生活を支援できる職場であり続けたいと思っています。

(総務部総務課)

ひとつ「働き方」を変えてみよう!

# カエル! ジャパン

Change! JPN 

内閣府「カエル! ジャパン」キャンペーンシンボルマーク

# 2012年度の入職式が行われました。

2012年4月2日(月)、2012年度の入職式が「いずみの園」で行われ、今年度4月の新任職員14名に、富永理事長より辞令が一人ひとりに手渡されました。いずみの園の職員数はこれで342名となりました。(経営企画室)



# 編/集/後/記

## ×ジロの眼

新年度を迎えると新入学生や新社会人には「あいさつが基本」と教えられる。でもどうしてだろう。「コミュニケーション」だ、「礼儀です」との答えが返ってくるのが相場だ。

ある学者は昔、日本は夜、暗闇の中ですれ違った人が敵か味方かを見分けるために声をだし、「私はあなたの敵ではない」と示したことが今日の挨拶の習慣との説をいう。

×ジロの間でも夕方になれば敵と味方を聞き分けるのに鳴き声は有効で、「私ハアナタノ味方デスヨ」と鳴いているのです!?



# マリアガーデン開園

2012年4月1日より、かねてからの念願であった事業所内保育施設「マリアガーデン」を開園しました。

2011年12月に着工し、2012年3月下旬に、そのかわいらしい建物、敷地の端っこにできあがりました。

子育て世代の職員が沢山いるので、その「バママ職員」が、安心して子どもを預けられ、今まで以上に一生懸命働いてもらえるようにという思いで保育施設を作りました。玄関にはステンドグラス、広くて天井が高い保育室と、まろい窓の乳児室、小さくてかわいらしいトイレなど、見ているだけでも楽しい建物です。元気な子どもたちが、無邪気に遊ぶ姿を想像すると、思わず笑顔になります。

そこで働く保育士さんは、保育士としての経験が充分あるばかりです。3月には、グレース保育園で実習をさせていただき、いろいろなことを勉強し、開園に備えました。



(内部のステンドグラス)

庭には開園を記念して桜の苗木を植えました。この桜が大きくなるとともに、子どもたちも大きく健康やかに育ってくればと願っています。

(総務部総務課)



## いずみの園デイサービスセンター北堀川開所

2012年4月2日にいずみの園デイサービスセンター北堀川が開所しました。中津市北堀川町の民家を改修し、小規模型の通所介護事業を行っています。北堀川では2006年5月1日より中津市の委託事業「中津市高齢者生きがい活動支援通所事業」(生きがいデイ)を行っていました。介護保険の介護度を持たず、独居、もしくは日中独居の方が対象となります。今回の通所介護の事業を開始することで、両方のサービスを受けている方が利用可能になります。

デイサービスセンター北堀川では、家庭的な雰囲気の中で過ごすことができ、定員15名の少人数の通所介護なので、お一人おひとりのペースにあつた過ごし方が可能です。デイサービスでは、上下肢筋力訓練機器で機能訓練を実施し、安眠促進、便秘解消効果のある家庭用電位治療器にてリラクゼーションを図ることが出来ます。また、機能訓練指導員によるマッサージや個人個人のニーズに合わせたアクティビティメニューをアロマの香りがする空間の中で実施することが出来ます。女性のニーズに即したアクティビティメニューが充実しています。

見学、体験利用など随時受け付けております。お気軽にご連絡ください。(電話番号は写真中にあります)職員の心よりお待ちしております。



## 「かきぜサポートセンター」が第1回中津市景観賞『まちなみ・建築部門』を受賞しました。



中津市では、優れた景観の形成に寄与している建物及び市民または団体に、中津市景観賞が贈られますが、その第1回の中津市景観賞の『まちなみ・建築部門』において、いずみの園の「かきぜサポートセンター」が選ばれ、4月9日に表彰式が中津市役所で行われました。

今回受賞した「かきぜサポートセンター」の、小規模多機能型住宅介護「寄り合いセンターいずみ」と認知症対応型共同生活介護「かきぜグループホーム(けやき・いちよう)(2ユニット)」は、2010年に新築開設された建物で、お年寄りが真に「くつろげる住宅」をきえ、また、中津城や豊後町のお寺や町家の風景・景観に馴染むように白壁やいぶし瓦葺の寄棟造りになっています。

今後、この受賞を機に、城下町中津の新しいまちづくりに一層協力していきます。



## 入居者(1棟)募集中

いずみの園が高齢者のための新しい住まいを提案します。

住宅型 有料老人ホーム  
シニアレジデンス

## いずみの森

最高のロケーションに誕生した  
自宅感覚で暮らす一戸建てホーム

- 24時間365日安心のライフサポーター常駐
- バリアフリー構造・テレビ電話完備
- 光通信による見守りシステム
- オール電化・IHシステムキッチン
- 在宅介護サービスのご利用が可能
- 駐車場(カーポート)完備



(2006年2月竣工)

〒871-0162 中津市大字永添 2765

TEL(0979)33-7070

<http://www.izuminosono.jp/izuminomori/>